

河内長野市埋蔵文化財調査報告書 X

三日市遺跡

觀心寺遺跡

1994年3月

河内長野市教育委員会

序 文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

そして、大阪市内へ30分と言う通勤条件に恵まれ、この環境とともに人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大し、地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握、保存に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長 中尾謙二

例　　言

1. 本書は平成5年度に河内長野市教育委員会が発掘調査を実施した三日市遺跡内の個人住宅にかかる発掘調査報告書と昭和63年度から平成2年度までに実施した観心寺遺跡の防災工事に伴う発掘調査報告書である。
 2. 三日市遺跡内の個人住宅にかかる調査は、本市教育委員会社会教育課文化係主査尾谷雅彦と鳥羽正剛を担当者として、平成5年4月1日から着手し平成6年3月31日をもって終了した。観心寺遺跡の防災工事に伴う調査は、尾谷雅彦を担当者として平成2年1月24日から着手し同年2月14日をもって終了した。
 3. 本書の執筆は第1節・第2節を鳥羽正剛、第3節を尾谷雅彦がおこなった。
4. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）
阿部園子・池田武・喜多頼子・久保八重子・杉本祐子・鈴木（明地）奈緒美・中尾智行
中西和子・中野雅美・中村清美・中村嘉彦・林和宏・東田幸子・樹本裕子・松尾和代
牟田口京子・結城（阪本）桂子
5. 本調査については、写真・実測図等の記録ならびにカラースライドを作成した。広く利用されることを希望する。

凡　　例

1. 本報告書に記載されている標高はT Pを基準としている。
 2. 土色は新版標準土色帖による。
 3. 図中の北は磁北である。
4. 本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。
- S E …井戸　　S K …土坑　　S N …埋桶　　P …ピット
5. 遺物実測図の縮尺は上器1/4・瓦1/4・木器1/4とした。

目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
第1章 調査の状況	1
第2章 調査の結果 第1節 三日市遺跡 M I C93-3	4
第2節 三日市遺跡 M I C93-5	6
第3節 観心寺遺跡	8

挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/50000)	2
第2図 三日市遺跡調査区位置図 (1/5000)	4
第3図 M I C93-3 遺構配置図 (1/100)	4
第4図 M I C93-3 調査区土層断面図 (1/40)	5
第5図 M I C93-3 包含層出土遺物実測図	5
第6図 M I C93-5 遺構配置図 (1/60)	6
第7図 M I C93-5 調査区土層断面図 (1/40)	6
第8図 M I C93-5 包含層出土遺物実測図	7
第9図 観心寺遺跡調査区位置図 (1/5000)	8
第10図 遺構配置図	8
第11図 S E 1・S K 1・S N 1出土遺物実測図	9
第12図 S E 1 遺構実測図 (1/30)	10
第13図 包含層出土遺物実測図	11
第14図 谷状地形出土遺物実測図 (1)	12
第15図 谷状地形出土遺物実測図 (2)	13
第16図 谷状地形出土遺物実測図 (3)	14
第17図 谷状地形出土遺物実測図 (4)	15
第18図 谷状地形出土遺物実測図 (5)	16

表 目 次

第1表 発掘届出件数月別一覧	1
第2表 土な民間開発発掘調査一覧	1
第3表 河内長野市遺跡地名表	3

図版目次

図版I 遺構	MIC93-3 第1調査坑全景（南から）、第2調査坑全景（北から）
図版II 遺構	MIC93-5 調査坑全景（南から）、発掘調査風景
図版III 遺物	MIC93-3 第1調査坑包含層（1～3）、MIC93-5 包含層（1～3）
図版IV 遺構	觀心寺遺跡調査区全景（西から）、調査区全景（東から）
図版V 遺構	SN1（南から）、SE1（北から）
図版VI 遺物	SE1（2）、SK1（1）、SN1（3～7）、包含層（8～11・13～15）
図版VII 遺物	谷状地形（16～49）
図版VIII 遺物	谷状地形（50～53・56～71）
図版IX 遺物	谷状地形（72～91）
図版X 遺物	谷状地形（92～97）

第1章 調査の状況

大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、古代から交通の要所となったところである。現代の河内長野市は大阪市への通勤圏に位置し、ベッドタウンとして年々人口の増加する町である。特にここ数年の人口増加は府下でも屈指の伸び率を示し、住宅の新築・改築件数も増えている。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共事業も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は避けたことのできない問題となっている。このような状況のなかで本市教育委員会は文化財の保護の立場から記録保存のための発掘調査を実施した。

本年度の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は、1月末現在で総数107件（発掘届92件、発掘通知15件）である。また、遺跡の新規発見届及び発見通知は7件提出されている。発掘届にみられる原因者の状況は、住宅造成地での個人住宅の建築及び改築に伴う届出が目立った。また、道路の開通と共に店舗の新設も増えている。

試掘調査の結果、新規発見の遺跡が7件あり遺跡数は増加するばかりである。

第1表 発掘届出件数月別一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	総数
発掘届(57条の2)	10	18	13	9	6	10	5	11	4	6	92
発掘通知(57条の3)		3		3	2	3	1	1	2		15
発見届(57条の5)		1						1	1		3
発見通知(57条の6)	1	1	1							1	4

第2表 主な民間開発発掘調査一覧

(1月末現在)

遺跡名	調査期間	中請者	申請面積	用途	区分	備考
堺崎	H6.4.1~4.21	エッソ石油㈱	1,668.83m ²	ガソリンスタンド	原因者	中世の井戸、酒、ビット検出
長野神社	H5.5.19	(株)長野神社	357.48	社務所	原因者	遺構、遺物なし
堀谷	H5.6.1	上原正秀	177.10	個人住宅	市 単	遺構、遺物なし
堀谷	H5.6.8	元谷 正夫	61.40	個人住宅	市 单	遺構、遺物なし
上原北	H5.6.22	友和興産㈱	979.27	分譲住宅	原因者	遺構、遺物なし
上原北	H5.6.22	HCGシゼイ	942.90	分譲住宅	原因者	遺構、遺物なし
三日市	H5.6.24~6.25	吉川昇	227.86	個人住宅	市 单	本署揭露
美子尻	H5.7.12	美子浦	671.28	店舗	原因者	遺構、遺物なし
長池窓跡群	H5.9.10	尾崎幸弘	333.40	個人住宅	市 单	遺構、遺物なし
木多瀬	H5.9.13	芳賀貴	95.68	個人住宅	市 单	遺構、遺物なし
堀谷	H5.9.21	樋谷英昭	996.88	共同住宅	原因者	遺構、遺物なし
高向	H5.9.27	安田洋二	269.00	個人住宅	市 单	遺構、遺物なし
		杉岡邦夫				
三日市	H5.9.28	福田レジ子	563.22	ガレージ及び物入	市 单	本署揭露
堀谷	H5.9.29~9.30	須田良	467.12	店舗併用個人住宅	市 单	近世の石組検出
喜多町	H5.10.15	北浦健三	487.71	共同住宅	原因者	遺構、遺物なし
小塩	H5.10.21	南海商事㈱	497.11	分譲住宅	原因者	7世紀の土坑、ビット検出
堀谷	H5.11.11	樋谷猪市	778.76	共同住宅	原因者	遺構、遺物なし
喜多町	H5.12.6	㈱エイトジャパン	337.19	店舗及び事務所	原因者	遺構、遺物なし
高向	H5.12.13	須藤和久	301.80	個人住宅	市 单	中世の土坑検出
		一瀬 康誠				
大日寺	H5.11.18~12.24	関西電力㈱ 大阪南支店	1,968.00	変電所	原因者	弥生中期の土坑、中世の土坑、 ビット、礫石検出
寺元	H6.1.10~1.11	山田トミエ	746.52	個人住宅	市 单	包含層から縄文時代石器、中世の瓦器出土
般心寺	H6.1.12	桐石勝正 桐石朋子	325.56	個人住宅	市 单	遺構、遺物なし
喜多町	H6.1.24	平井一夫	88.11	個人住宅	原因者	遺構、遺物なし



第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/50000)

第3表 河内長野市遺跡地名表（欠番は地図範囲外）

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町	50	高向神社遺跡	社寺	中世～
2	河合寺	社寺		51	古が原神社遺跡	社寺	
3	観心寺	社寺	平安～	52	膳所藩陣屋跡	城館	江戸
4	大崩山古墳	古墳	古墳前	53	双子塚古墳伝承地	古墳	古墳
5	大崩山南古墳	古墳	古墳後	54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
6	大崩山遺跡	集落	弥生後	55	河合寺城	城館	
7	興福寺	社寺		56	三日市遺跡	集落	旧石～近世
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町	57	日の谷城	城館	室町
9	塚穴古墳	古墳	古墳後	58	高木遺跡	散布地	縄文
10	長池窯跡群	生産	平安～近世	59	汐の山城	城館	中世
11	小山田1号墳	墳墓	奈良	60	峰山城	城館	中世
12	小山田2号墳	墳墓	奈良	61	稻荷山城	城館	中世
13	延命寺	社寺		62	因見城	城館	中世
14	金剛寺	社寺	平安～	63	旗藏城	城館	中世
15	日野观音寺遺跡	社寺	中世	64	権現城	城館	中世
16	地藏寺	社寺		65	天神社遺跡	社寺	
17	岩湧寺	社寺	平安～	66	葛城第15經塚	経塚	
18	五の木古墳	古墳	古墳後	69	石仏城	城館	中世
19	高向遺跡	集落	旧石・中世	70	左近城	城館	中世
20	鳥船了形城	城館	中世～近世	72	葛城第16經塚	経塚	
21	吉多町遺跡	集落	縄文～中世	82	千代田神社遺跡	社寺	
22	鳥帽子形山古墳	古墳	古墳後	83	向野遺跡	集落	縄文～室町
23	末広窯跡	生産		84	古野町遺跡	散布地	中世
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世	85	上原北遺跡	散布地	
25	流谷八幡神社	社寺		86	大日寺遺跡	社寺	中世
27	蟹江瀬北遺跡	散布地	中世	87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
28	天見駿北方遺跡	散布地	中世	88	小塙遺跡	集落	縄文～奈良
29	千早口駿南遺跡	散布地	中世	89	加塙遺跡	集落	古墳後
30	岩瀬東御寺	墳墓	中世～近世	90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
31	清水遺跡	散布地	中世	91	ジョウノマエ遺跡	城館	中世
32	伝伴麻廟古墳	古墳	古墳	92	仁王山城	城館	中世
33	草村地蔵堂跡	社寺	近世	93	岩立城	城館	中世
34	滝畠堀墓	墳墓	近世	94	タコラ城	城館	中世
36	東の村觀音堂跡	社寺	近世	95	上原近世瓦窯	生産	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
39	滝尻赤勒空跡	社寺	近世	97	上田町窯跡	生産	近世
40	宮ノ下内墓	墳墓	近世	98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
41	宮山古墳	古墳	古墳後	99	西之山町遺跡	集落	中世
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
43	本多瀬岸呈跡	城館	江戸	104	小野塙	墳墓	
		散布地	飛鳥～奈良	105	葛城第17經塚	経塚	
44	上原町墓地	墳墓		106	柔師堂跡	社寺	中世～
45	懇持寺跡	社寺	鎌倉	107	野作遺跡	集落	中世
46	栗山遺跡	経塚		108	寺元遺跡	集落社寺	奈良・中世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文	110	法師塙古墳跡	古墳	
48	上原遺跡	散布地	中世	111	山上講山古墳跡	古墳	
49	住吉津社遺跡	社寺		112	西浦遺跡	集落	古墳・中世

第2章 調査の結果

第1節 三日市遺跡 M I C93-3

1. 結果

調査地は河内長野市東片添町75-1に所在し、三日市遺跡の石見川の谷に当たる低位段丘の東端に位置する。この調査区からは縄文時代早・中・後・晚期、弥生時代中期、古墳時代前・中期、平安時代末期の遺構が確認されている。

調査は調査地の東西に2箇所の調査坑を設定し実施した。その結果、両調査坑から遺構と遺物を検出した。

A. 第1調査坑

調査区は東西1.8m、南北1.7mの規模で設定した。遺構面は現地表下-0.4mで検出し、土坑1基とピット1箇所を検出した。基本層序は耕土、床土、にぶい黄褐色細砂、褐色粗砂混じり粘土であった。

遺構

【SK1】（第3・4図、図版1）

調査区のはば中央に位置する。遺構の平面形はほぼ円形を呈する。遺構の規模は直径0.5m、深さ0.4mである。

遺物は出土していない。



第2図 三日市遺跡調査地位置図 (1/5000)



第3図 M I C93-3 遺構配置図 (1/100)

[P 1] (第3・4図、図版I)

調査区の北端に位置する。遺構の平面形は調査区外に延びるため不明である。遺構の規模は検出部分で長軸0.3m、短軸0.25m、深さ0.3mを測る。

遺物は出土していない。

包含層 (第5図、図版III)

包含層からの遺物には陶邑編年II-3~6に相当する須恵器环身(1・2)と、扈(3)が出土した。これらの遺物は6世紀中頃から7世紀前半のものと考えられる。

B. 第2調査坑

調査区は第1調査坑の西側に東西2.1m、南北1.2mの規模で設定した。遺構面は現地

表下-0.4~0.5mで検出し、ピット2箇所を検出した。基本層序
は耕土、床土、灰オリーブ色細砂、灰黄褐色粗砂、暗灰黄色シルトであった。

遺構

[P 2] (第3・4図、図版I)

調査坑の東側で検出した。遺構の平面形は正な円形を呈する。

遺構の規模は長径0.25m、短径0.2m、深さ0.15mを測る。

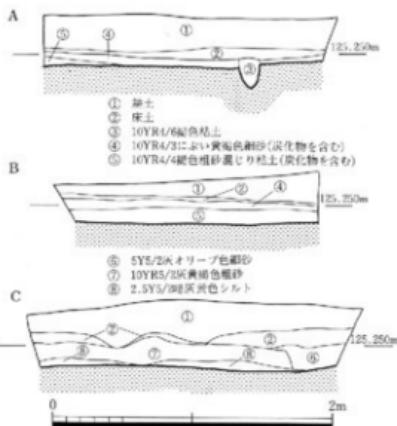
遺物は出土していない。

[P 3] (第3・4図、図版I)

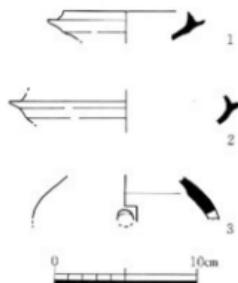
調査区の西側に位置する。遺構の平面形は正な円形を呈する。

遺構の規模は長径0.45m、短径0.4m、深さ0.15mを測る。

遺物は出土していない。



第4図 M I C 93-3 調査区土層断面図 (1/40)



第5図 M I C 93-3 包含層出土遺物実測図

2.まとめ

調査の結果、遺構を検出したが、これらからの出土遺物はなく時期は不明である。また調査坑が狭小のため遺構の性格は把握できなかった。

第2節 三日市遺跡 M I C93-5

1. 結果

調査地は河内長野市東片添町75-2他に位置し、M1C93-3の西側に隣接する住宅地である。調査坑は1.5m×1.5mの規模で設定した。遺構面は現地表下-0.5mで検出し、土坑3箇所を検出した。基本層序は黄褐色粗砂・緑灰色粗砂混じり粘土・灰オーリープ色粘土・暗オーリープ色粘土であった。

A. 遺憾

〔SK1〕(第6図、図版II)

後述のSK2に切られているため、平面形は不明である。遺構の規模は、検出部分で長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土していない。

[SK2] (第6図、図版II)

S K 1 の南側を切って位置している。遺構の平面形は椭円形を呈する。遺構の規模は長径 0.65m、短径 0.55m、深さ 0.35m を測る。

遺物は出土していない。

[SK3] (第6・7図、図版II)

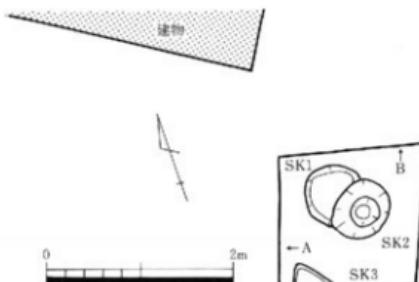
調査区の西端に位置する。遺構の平面形は調査区外に延びるため不明である。遺構の規模は検出部分で長軸0.45m、短軸0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土していない。

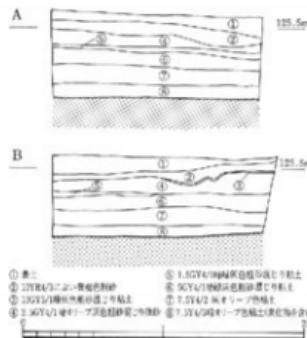
B. 遗物

包含層（第8図、図版III）

遺物は包含層から弥生土器壺肩部(1)、鉢脚部と考えられるもの(2)、須恵器高环脚部(3)を検出した。

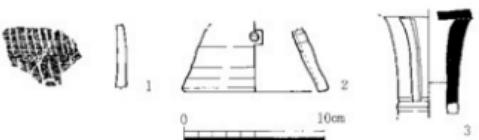


第6図 M1C93-5構造配置図 (1/60)



第7図 MIC93-5調査区土層断面図(1/40)

(1) の外面には簾状文を施し、その上に円形浮文を配する。内面の調整は摩滅が激しく不明である。弥生時代中期の畿内第Ⅲ様式に属すると考えられる。(2) は円孔をもつ。外面には凹線文を施し、内面にはナデ調整をおこなう。弥生時代後期の第Ⅳ様式に属すると考えられる。(3) の脚部には長方形の透窓が施され、三方向に刻まれていたと考えられる。陶邑編年II-4~5に相当し、6世紀後半から7世紀前半のものと考えられる。



第8図 M I C93-5 包含層出土遺物実測図

2.まとめ

調査区の範囲が限定されているため、具体的な遺構の性格は把握できなかった。しかし狭小な調査区にもかかわらず遺構を検出したことからは、石見川の北岸には密度が高く、保存状況の良い遺構が存在する可能性が考えられる。今後の調査成果を待ちたい。

第3節 観心寺遺跡

1.はじめに

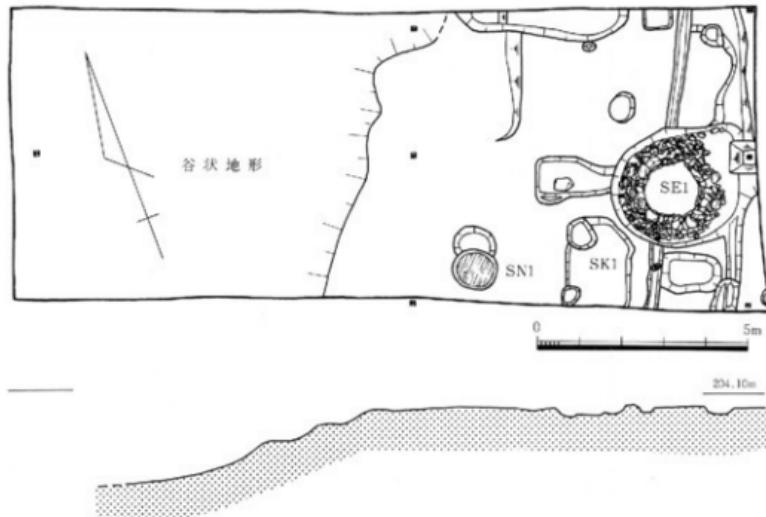
観心寺は石川の支流、石見川によって開析された谷の北側、標高200mに位置する。真言宗の寺院で山号は檜尾山という。境内は国の史蹟に指定されている。

創建は寺伝によれば大宝年間（701～714年）で、役小角によって開かれ当初は雲心寺と称されていたとされている。この寺を空海の弟子実惠とさらに実惠の弟子真紹によって天長2年（825年）、あるいは天長4年（827年）に再興されたと伝えられる。寺は平安時代から中世にかけて興隆し、平安時代は全国に莊園を領していた。鎌倉時代末から南北朝時代には、楠木氏との関係から後醍醐天皇方、南朝方に属していた。

当寺には国宝3点、重要文化財33点などがある。特に国宝の如意輪觀音像座像、金堂などは著



第9図 観心寺遺跡調査地位置図 (1/5000)



第10図 遺構配置図

名である。このような文化財を保護するため、昭和63年から平成2年にかけて境内の防災施設設置の工事が実施された。この工事は防火用水のための配管と避雷針の設置がなされ、さらに防火用水のポンプ施設が作られることになった。これらの施設は境内をめぐるもので、教育委員会はこの工事で影響を受ける部分に関して記録保存を実施した。特にポンプ施設に関しては200m²と広く、この部分については平成2年1月21日から平成2年2月14日まで調査を実施した。ポンプ施設は現建掛塔の南側の一段下がった所に位置し、四十八あったと伝えられている塔頭のひとつ「奥谷坊」の付近にあたる。

2. 調査の結果

A. 遺構

調査の結果、調査地の南側の2分の1は南側から南西方向に標高を下げる谷と成っていた。残り2分の1に井戸、溝、土坑など若干の遺構が残存していた。

〔S E 1〕（第10・11・12図、図版V・VI）

調査区の東端から検出された石組井戸である。平面形は円形を呈する。掘方の長径3.55m、短径2.9m、深さ2.1mの大型の井戸である。石組の内径は1.25mで、底から1.15mの高さまで最大30×20×20cmの川原石が積まれている。

遺物は灰釉陶器の塊（2）が出土している。

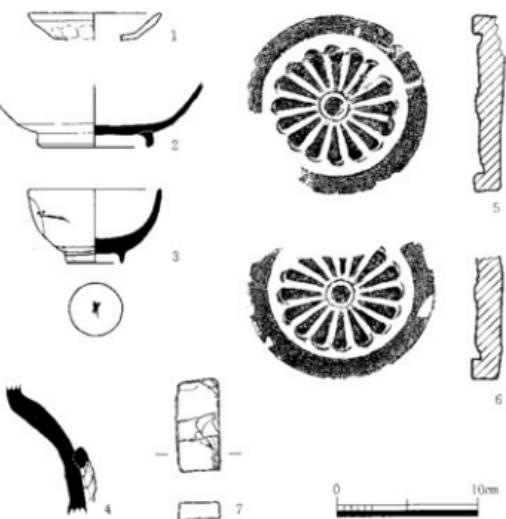
〔S K 1〕（第10・11図、図版VI）

遺構の南側は調査区外に広がる。平面形が長椭円形を呈する土坑である。検出長は2.15m、幅1.5m、深さ0.15mを測る。内部からは火を受けた壁土が出土した。

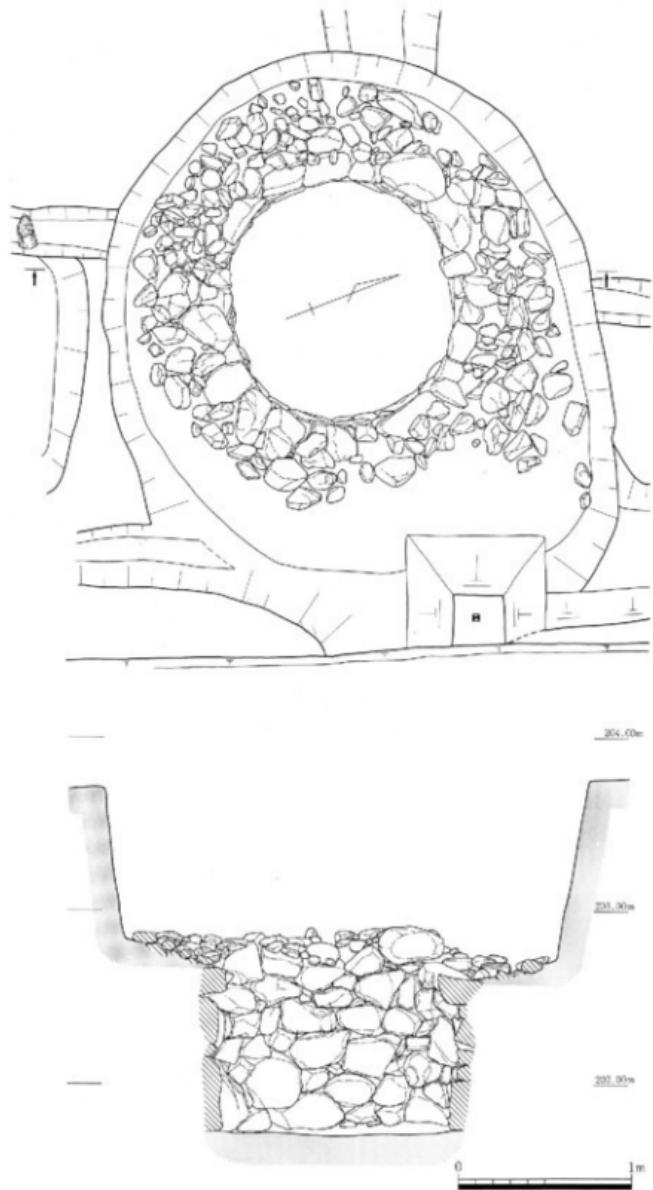
遺物は土崩器坏（1）が出土している。

〔S N 1〕（第10・11図、図版V・VI）

S K 1 の西侧1.5mに位置する。平面形が円形の掘方に木桶が埋められていた。上部は削平されて底部しか残存していないかった。直径0.95m、深さ0.3mを測る。木桶の木



第11図 S E 1 · S K 1 · S N 1出土遺物実測図



第12図 SE 1 造構実測図 (1/30)

材の厚さは2cmであった。

遺物は染付碗（3）、丹波焼壺体部（4）、菊弁の16弁の軒丸瓦（5・6）が2点、砥石（7）が出土している。

〔谷状地形〕（第10・14・15・16・17・18図、図版IV・VII・VIII・IX・X）

調査区の西側半分が南西に下がる谷状の地形である。調査区内の比高差は約2mを測る。埋土は表土層を入れて4層からなる。上層の2層は遺構のある平坦面まで覆っている。表土下層は暗赤褐色の疊混じりシルトで、谷状地形の埋土はその下層の2層で色調は同じ暗赤褐色の疊混じり粘土で炭を多量に含んでいる。

遺物の大半はこの谷状地形から出土している。須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、綠釉、瀬戸などが出土した。

B. 遺物

（1）包含層（第13図、図版VI）

大半の遺物は谷状地形から出土した。しかし、一部表土下層の暗赤褐色の疊混じりシルトから出土している。出土品は土師質皿（8・9）、瓦器皿（10・11）、瓦器塊（12）、瓦質土釜（13）、瓦質火舍（15）、備前小壺（14）である。

（2）谷状地形

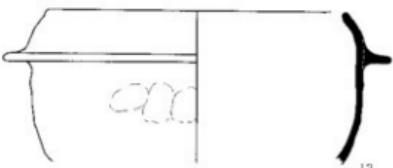
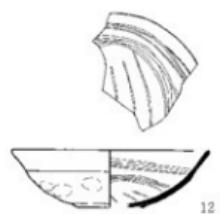
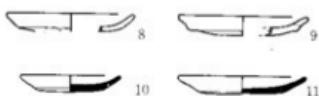
〔須恵器〕

須恵器では坏蓋（16）、鉢（18）、壺（19・20）が出土している。坏蓋（16）はつまみを有するもので壺（19・20）とともに焼成は良い。鉢は前記の3点とは胎土が異なりやや粗い感がある。時期的には平城京土器VI～VIIと考えられる。

〔土師器〕

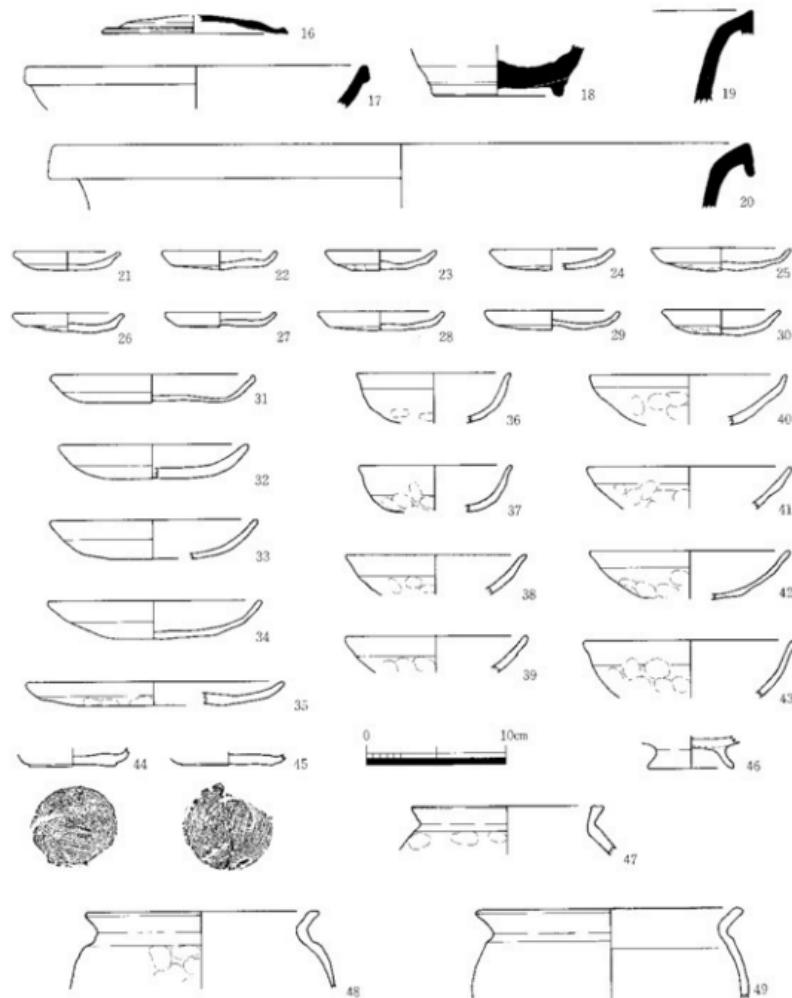
土師器には皿と壺と甕がある。

皿（21～35・44・45）はすべて口縁内外面横ナデ、体部外面は指オサエが施されている。体部内面は不定方向へのナデが施されている。（21）～（30）までは口径が10cm未満で、（21）～（23）と（26・27）は口径8cm、（24・28・30）は口径9cm、（25・29）は口径10cmである。このなかで（22・26・27）は

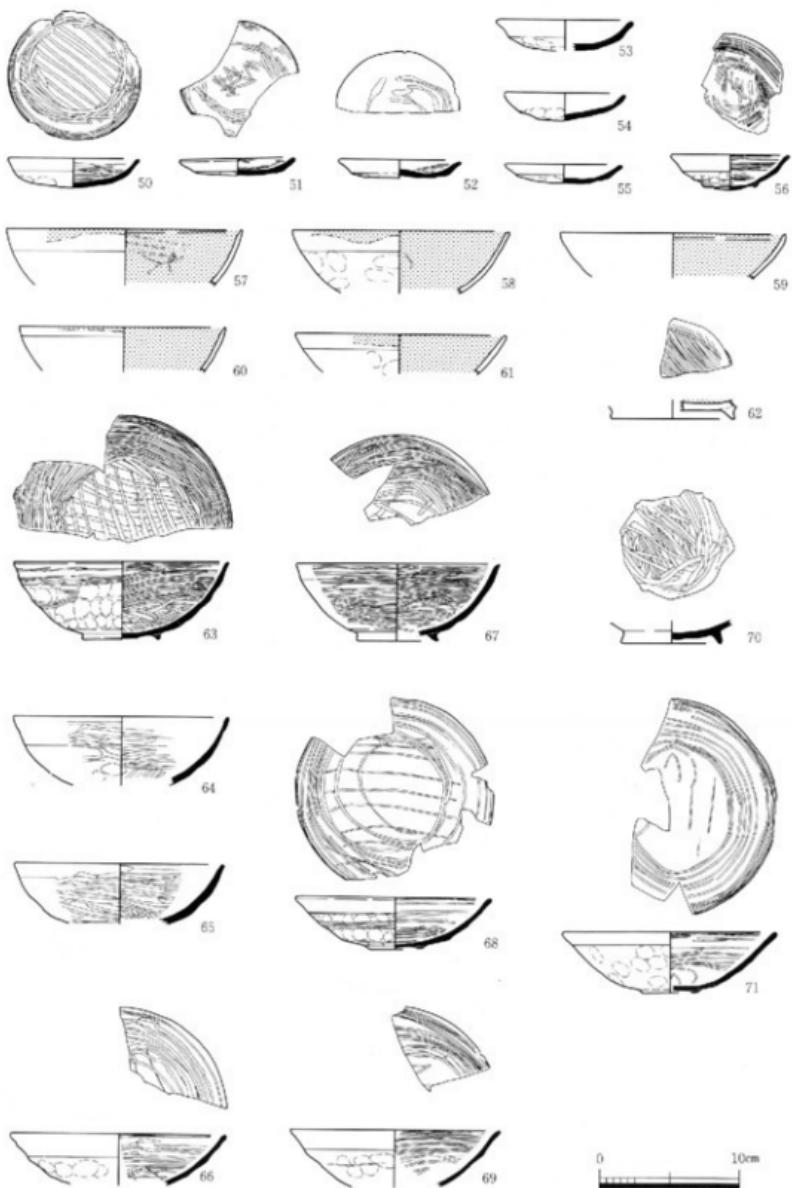


第13図 包含層出土遺物実測図

口縁部の立ち上がりが鋭く、底部の境が明瞭である。(25・29)の内面のナデはヘラ状工具により施されている。(31)～(35)は口径13cm以上である。(31)は口縁端部が内傾気味につまみあげられている。(32)は他の皿に比べ器壁はやや厚い。(35)は底部から口縁部になだらかに立ち上がり、形状は盤状を呈する。(44・45)は所謂糸きり底の皿の底部である。底部内面は横



第14図 谷状地形出土遺物実測図（1）



第15図 谷状地形出土遺物実測図（2）

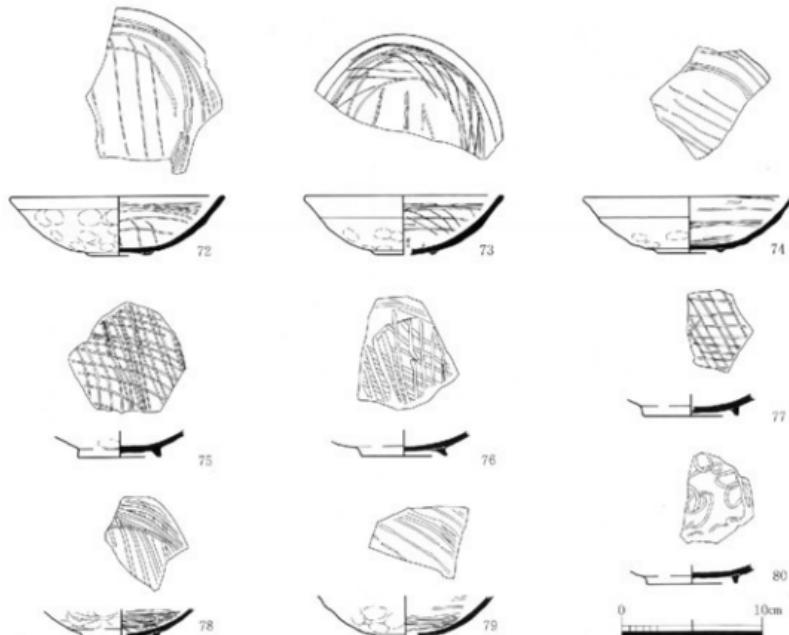
ナデが施されている。

杯（36～43・46）はすべて口縁内外面横ナデ、体部外面は指オサエまたはその上を不定方向にナデしている。（36・37）は口径11cm、（38・39）は口径13cm、（40・42）は口径14cm、（41・43）は口径15cmである。（36・37）は口縁部外面を強く横ナデ調整を施しているため、端部は外方向に外反する。内面の横ナデは底部まで達する。（40）は口縁端部が外上方に、横ナデによって折り曲げられた様に成されている。（38・42・43）の内面調整は横ナデが口縁部に限られている。

甕（47～49）は丸胴で、口縁部に近い肩部は浅い段を成す。肩部から体部には指オサエが見られる。口縁部は（47）が外上方に屈曲する。端部は平坦で浅い凹線が走る。（48・49）はくの字に外反し、端部はやや丸みを帯びた平坦な面を成す。

〔黒色土器〕

黒色土器（57～62）はすべて内黒のA類の塊である。（57～61）はすべて内面に横位の丁寧なミガキが施されている。ミガキは口縁端部外面まで及んでいる。体部外面はヘラケズリが施されている。また、（57）の口縁端部内面は沈線が巡り段を成す。内面には暗文が見られる。暗文は（58）にも見られる。（62）の高台はハの字に張り出す。



第16図 谷状地形出土遺物実測図（3）

〔瓦器〕

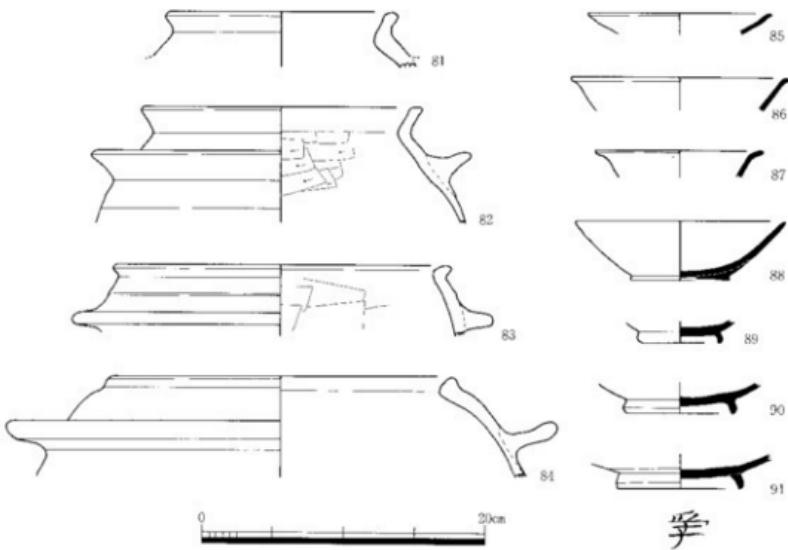
瓦器は皿（50～55）と小型塊（56）、塊（63～80）が出土している。

皿は（50・53）が底部が丸みを帯びて、口縁部は強い横ナデによって内湾しながら外傾する。内面には暗文が施されている。底部外面は指オサエののち丁寧にナデている。他の皿は底部が平たく外面は指オサエの後が残る。

小型塊（56）はやや作りが雑である。高台も丸みをもった底部より上位に付けられているため座りが悪い。高台より突出した底部をへラ切りで調整している。

塊は（65・67・70）が尾上編年のII-3に該当するものと思われ、器壁も厚く口縁部に向かって均一に薄くなり、口縁端部は内側に内湾しながら終わる。内面のミガキは密に施されている。

（63・64・75～77）は尾上編年のIII-1に該当するものと思われ、（63・64）以外はすべて底部の破片である。いずれも見込みに格子状の暗文が見られる。高台は取り付け部幅もあり、段面三角形を呈する。（63・64）は口縁部外面までヘラミガキが見られ、一部体部まで見られる。（66・68・69・71～74）は尾上編年のIII-2・3に該当するものと思われる。いずれもやや直線的に外傾する体部と口縁部をもち、体部外面は指オサエの跡を残し口縁部は横ナデ、内面はヘラミガキが密に見られ、見込みの部分は粗い平行線文の暗文が見られる。これらは口径と器高の比率から（68・73）がIII-3、その他がIII-2に該当する。



第17図 谷状地形出土遺物実測図（4）

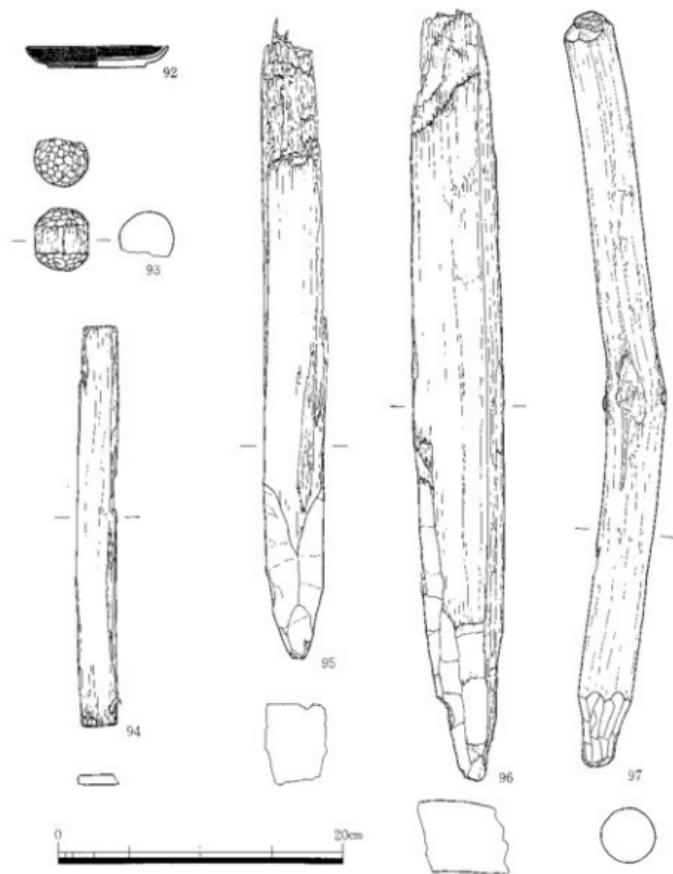
〔十節質土器〕

すべて上釜である。(81・82)は口縁部が大きく外傾するもので、内面は横ナデにより凹面を成す。(81)は端部が丸みを帯びるが、(82)は面を成す。(83)は口縁端部が短く外上方へ屈曲する。鈎上部を強く横ナデしている。(84)は口縁端部を外上方に肥厚している。

これらは菅原正明の分類による河内B型に相当する。

〔須恵質土器〕

(17)は東播系の練鉢で、焼成は非常に良好である。



第18図 谷状地形出土遺物実測図（5）

〔陶器〕

(85・86・89~91) は灰釉陶器である。(85) は皿、それ以外は壺と思われる。(89) は見込み部分まで刷毛による施釉が成されている。他には見られない。(91) の底部には墨書があり、「争」と読める。

(87・88) は緑釉陶器の壺である。(87) は口縁端部が外反する。(88) は体部から口縁部に向かって直線的にのび、外傾する。

〔木器〕

漆塗り椀の底部(92) が出土している。内外面とも黒漆である。(93) は俵型を成し用途は不明である。(94) は用途不明の板状の製品である。(95~97) は杭で(95・96) は角材、(97) は自然木の端を尖らせて作られている。

3.まとめ

調査の結果、遺構については「奥谷坊」の一部分と思われる井戸、土坑が検出された。井戸からは灰釉陶器が出土しているが、この時期まで遡ることができるかは疑問であり、他の遺構から見て近世と考えるほうが妥当である。

谷状地形は、その出土遺物が9世紀頃から13世紀頃までを中心として出土していることから、谷の埋没はこの間と考えられる。この時代は縁起資財帳に記載されている菅葺きと考えられている初期伽藍(9世紀~10世紀)とその後の伽藍が瓦葺きとなるII期(11世紀~14世紀)の時期に相当する。ちなみにIII期は金堂や建樹塔が建立された南北朝時代から現在までである。

このように、今回の調査は觀心寺について、金堂以外で初めて考古学的調査を実施したもので、多大な成果を得た。

図 版



M I C 93—3 第 1 調査坑全景 (南から)



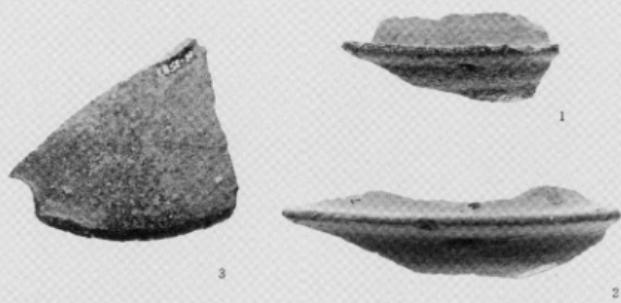
M I C 93—3 第 2 調査坑全景 (北から)



MIC 93—5 調査坑全景（南から）



MIC 93—5 発掘調査風景



M I C 93—3 第1調査坑包含層 (1~3)



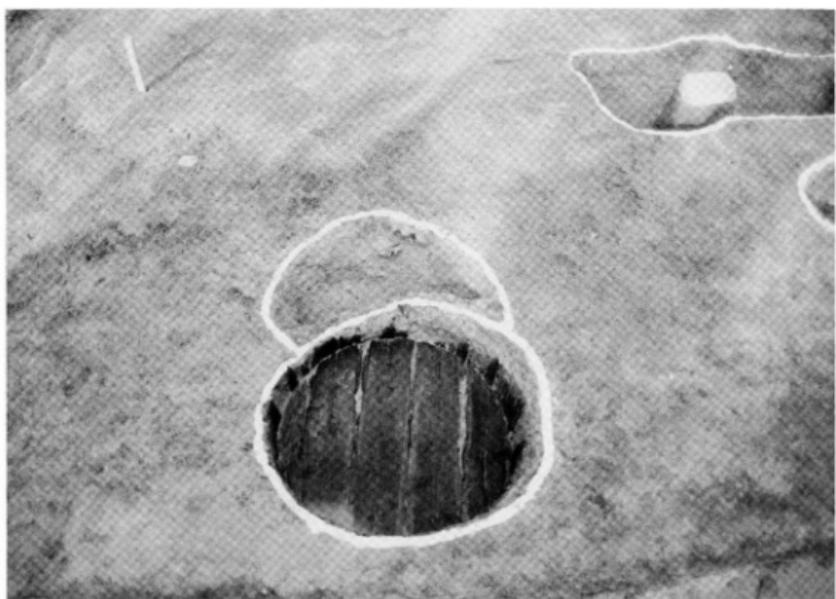
M I C 93—5 包含層 (1~3)



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



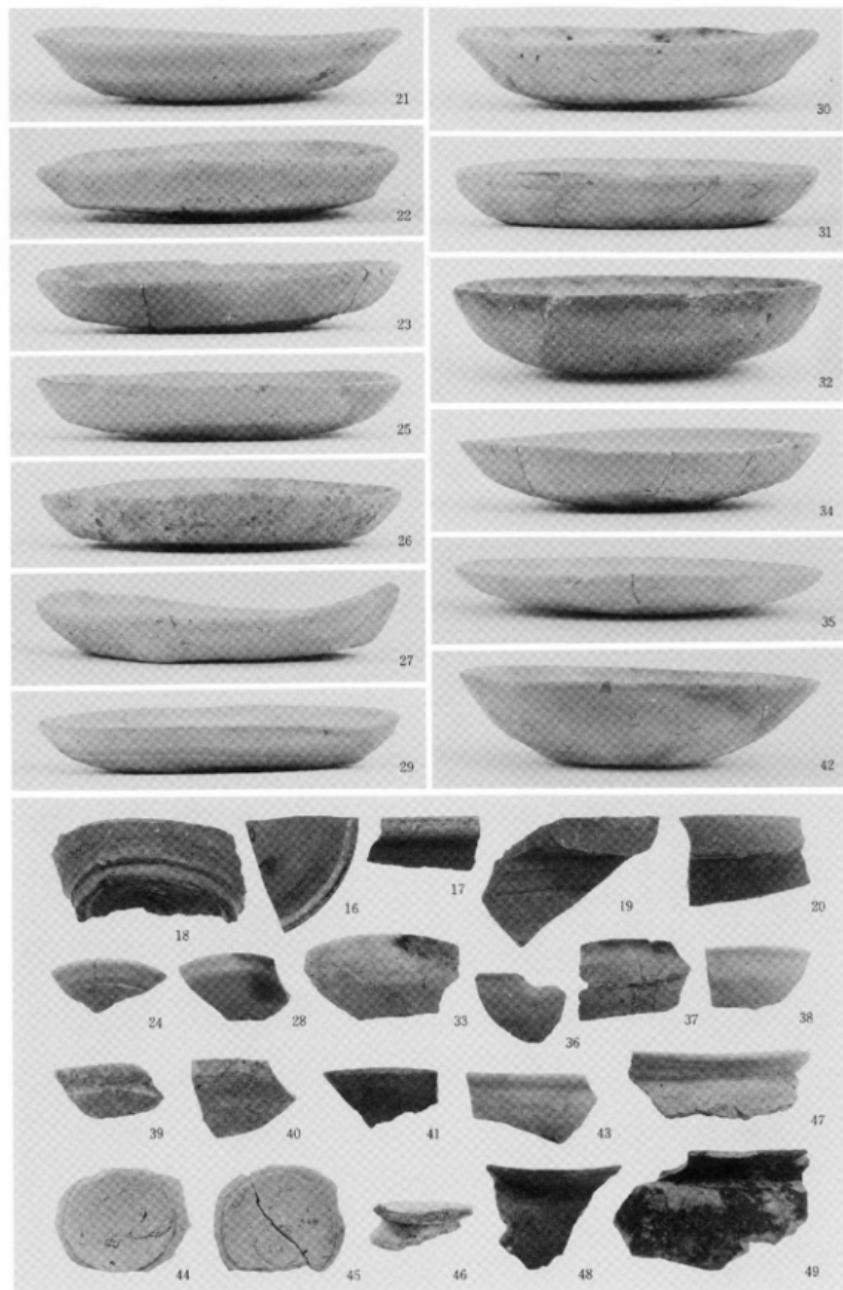
S N 1 (南から)



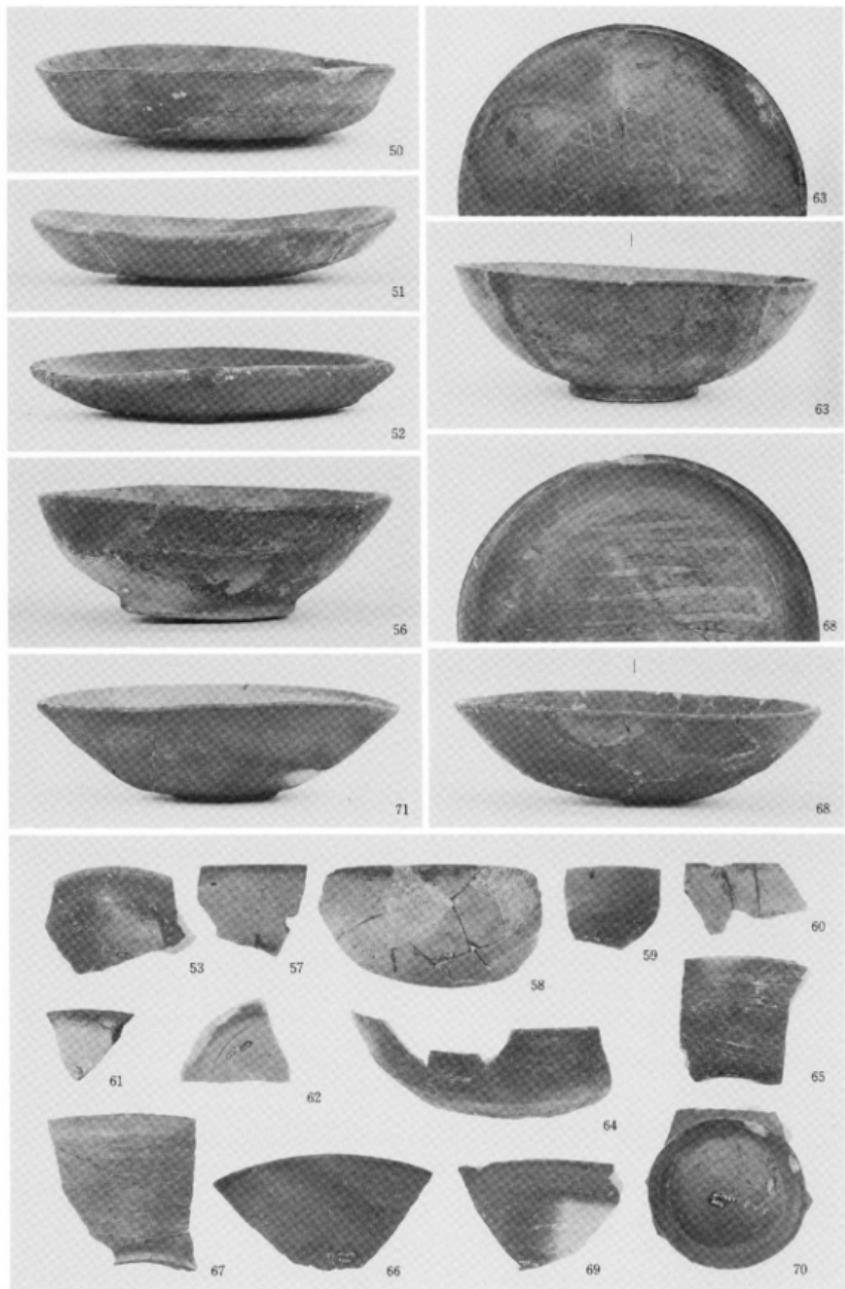
S E 1 (北から)



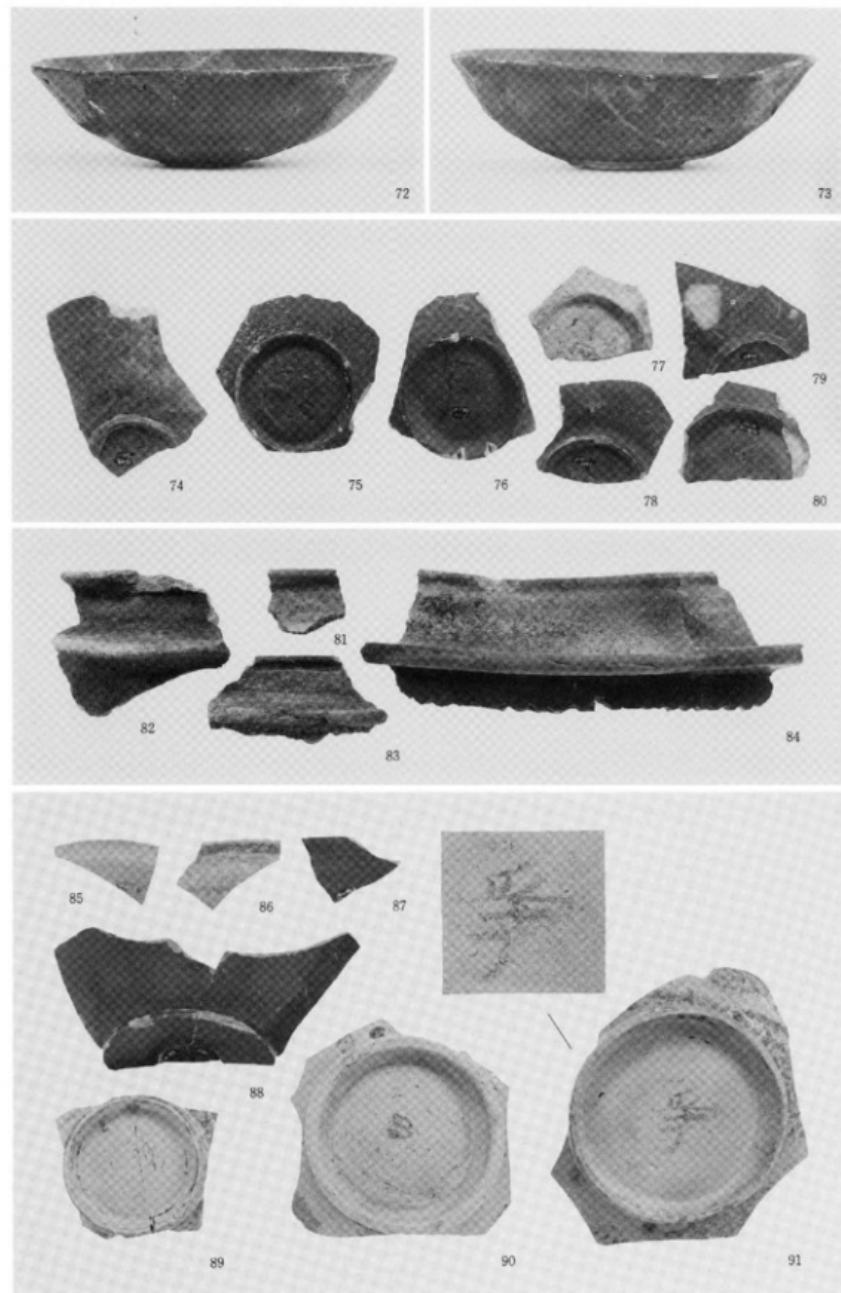
SE 1 (2)、SK 1 (1)、SN 1 (3~7)、包含層 (8~11・13~15)



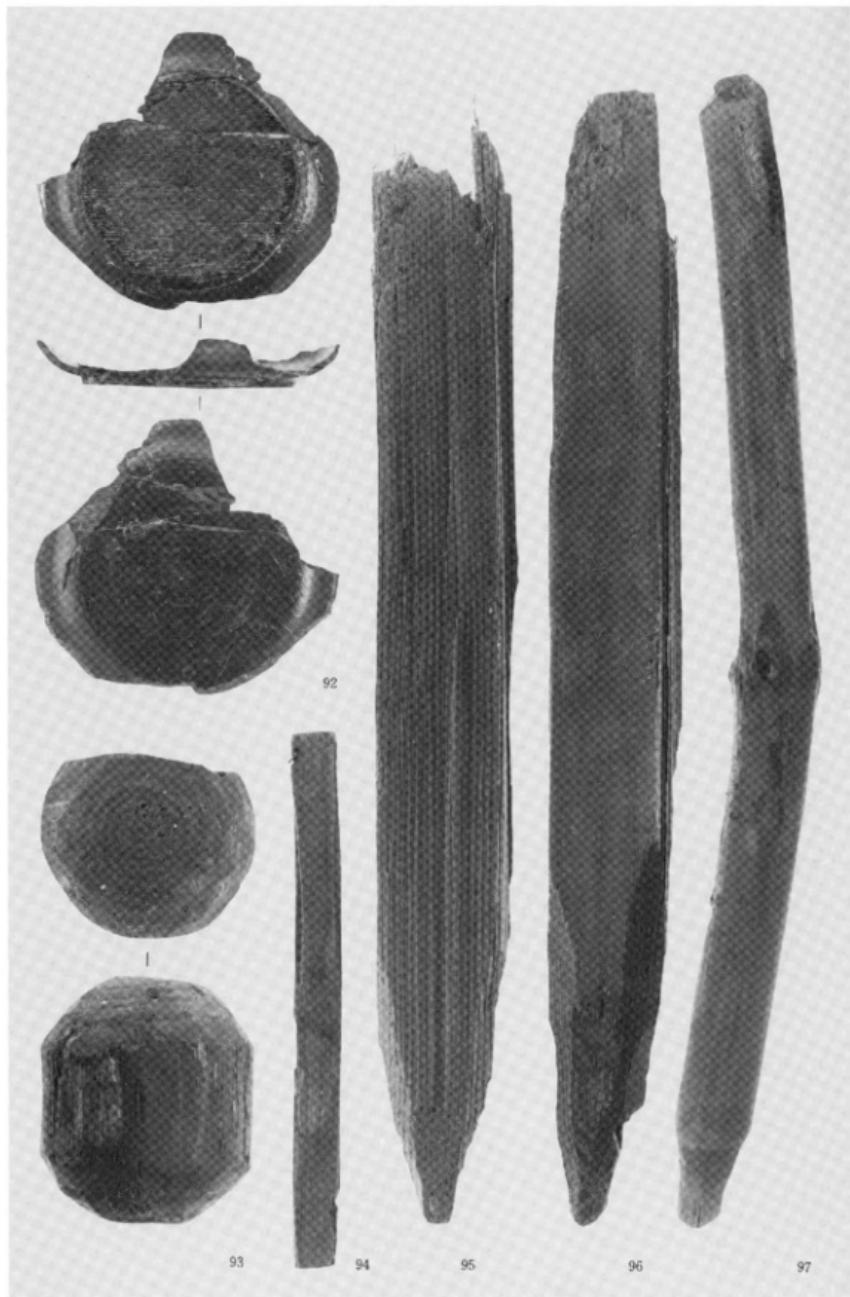
谷状地形 (16~49)



谷状地形 (50~53・56~71)



谷狀地形 (72~91)



谷狀地形 (92~97)

